

INGING MOTORSPORT NEWS PAPER

Vol.
6
2020

SUPER FORMULA 2020 JMS P.MU/CERUMO·INGING Race Report

NEXT RACE

Round 7 富士スピードウェイ 12.20 SUN

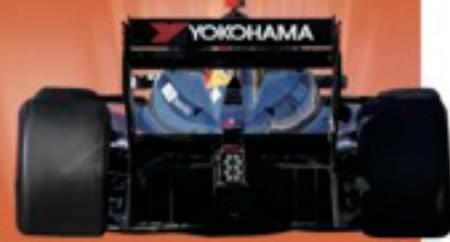
Take Free!

Chapter.6

ファイナルファイト

#RACE ARCHIVE

決戦の
エピローグ
荒れ地と化す
サーキット
The Final Fight



INTERVIEW

■ チーム監督 立川 祐路

「最終戦、岡山Rdのようなレースを

もう一度」

■ 38号車 ドライバー 石浦 宏明

「最終戦に向けた

改善へ」

■ 39号車 ドライバー 坪井 翔

「良い部分を

最終戦の
富士へ」

Last Battle!

RACE ARCHIVE

レースアーカイブ Round.5・決勝 鈴鹿サーキット

決勝 12月5日(土)<決勝>
天候:晴れ/雲り/コース状況:ドライ

冬空も青く風が冷たく感じる13時15分、オンタイムにてフォーメーションラップがスタートした。タイヤを温める為にエクストラフォーメーションラップが2周設けられた。その際に止まってしまったクルマ、ピットに戻るクルマもあり、集中力を保つのが難しい幕開けながらも全車がグリッドについた。決勝は30周から2周減算され28周でスタートした。オープニングラップで64号車がコースアウト。マシン回収の為1度目のセーフティーカーが入ることに。マシンの回収が終わると6周目でグリーンフラッグが振られリストートとなった。39号車坪井は、13番手からスタートし、オープニングラップで9位へ。リストート後、15号車の猛追を受けるも逃げ切る。10周が終了するとピット作業が可能になる為、ルーティンのピット作業に向かうクルマが多く、前が開けた為そのままステイし6位で走行。12周で5位。続々と前の車がピットに向かい14周で2位まで浮上。38号車石浦は、オープニングラップで11位へ。10周終了で39号車と同様にステイした為8位。12周で6位、13周目で5位、14周で3位となった。この14周時点でトップ5号車から約10秒のギャップ。5号車は18周目にピットインし、1-2体制となった。18周目で50号車がクラッシュし、セーフティーカーがすぐさま導入された。そのタイミングでピットに向かう2台。38号車は、セクター2で左リアタイヤがバーストしてしまう。ピットに戻るタイミングとセーフティーカーが同時にあったものの、ピットに戻るのに時間を要した。39号車は6.8秒の速さでピット作業を終えると5位でコース復帰。ようやくピットに戻った38号車は、10位でコース復帰。22周が終了しセーフティーカーがピットインし、23周目でリストートとなった。石浦は、65号車をパスし9番手。23周目の木



RACE ARCHIVE

レースアーカイブ Round.6・決勝 鈴鹿サーキット

決勝 12月6日(日)<決勝>
天候:晴れ/雲り/コース状況:ドライ

鈴鹿ラウンド2日目。冬晴れ、そして昨日よりも若干気温の低い朝を迎えた。風はなく、日差しは暖か絶好のレース日和。第5戦と2日連続でレースフォーマットも全く同じ。前日から学んだことも多く、それを少しでも活かしたい第6戦。ランキングの変動から予選グループのメンバーも変わり、また新たな気持ちで一日がスタートした。

ピットインを坪井が後、
石浦を先に入れる戦略に

人の観衆を集め、2周のフォーメーションラップのちレースがスタートした。10番手スタートの坪井は、1周目で7位、3周目に36号車をパスし6位へ浮上。石浦は12番手からスタートし、オープニングラップで1つポジションを落とし13位。その後、2台のクラッシュで1度目のセーフティーカーが導入される。7周目でレース再開となったが、8周目でトップ走行中の1号車がエンジントラブルによりスローダウン、2度目のセーフティーカーが入った。この時点でポジションは、坪井4番手、石浦10番手。セーフティーカーラン中に10周目を迎えると、ピット作業が可能となる為ピットに向かうクルマが多数いた。レース前の戦

クルマの状況を鑑みると、予選の順位は想定内だが、そこからどれだけ良い上げるか、また昨日決勝中に、2台が同時にピットインすることになってしまった点はリスクがある為、それを避けるべくピットインを、坪井が後、石浦を先に入れるという戦略にした。12,500

坪井は、スタートも決まって順位を上げ序盤から良い展開でした。ピット作業のミスは、チームとして改善が必要ですし、特にそのミスの煽り

3回目のセーフティーカー
サーキットは荒地と化した。

略とは異なり、このタイミングで2台同時にピットインを選択せざるを得なかった。坪井を先に呼び込み、石浦が間合いを取ってピットに向かう。先に入った坪井のピット作業でタイヤ交換をするインパクトレンチに不具合が出てしまいタイムロス。石浦は、この作業を待つことになり、また自分のピット作業も時間がかかり大きくポジションを落とした。坪井は6番手、石浦は15番手でコースに復帰。13周目でレース再開。坪井は14周目18号車にパスされ7位となったが、19周目18号車が目の前でスピン、坪井は間一髪クラッシュを回避した。マシン回収の為3回目のセーフティーカーが導入された。20周目、コースにステイアウトしていた2台がピットイン、全車ピットインした段階で坪井は4位、石浦は10位。22周でレース再開となる。決勝ペースは昨日より辛い中で、荒れたレースを最後まで生き残ることも考えられる。リストート後は2台のポジションは変わらず、最終的に坪井4位、石浦10位でチェックを受けた。



INTERVIEW

石浦 宏明 38号車 ドライバー

最終戦に
向けた改善へ

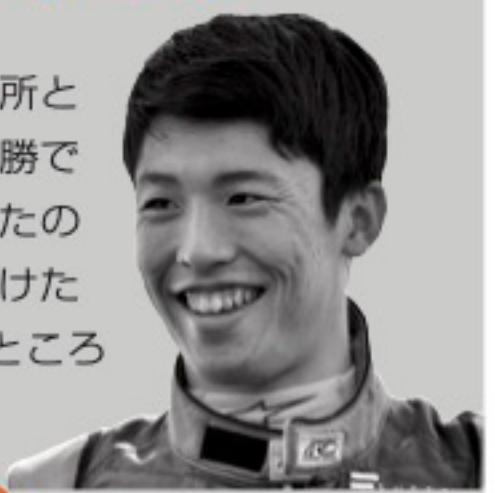
予選で今出来る事にはトライし、クルマの限界が若干上がり光明が見えてきた感じはしました。しかし、他の速いクルマとの差が大きく予選上位を望む感じではなかったです。決勝ペースは昨日よりは良くなく、セットアップの変更は反省点もあり、狙っていた鈴鹿での大量得点を獲得することができませんでした。鈴鹿ではチーム全体で速さを出せていないですし、今シーズンサーキットによって戦績の上下が激しいので2台とも速いクルマを仕上げていくことを考えていかなくてはと思います。またピット作業も成功率が低く、最終戦に向け可能な限り改善していくと思っています。

坪井 翔

39号車 ドライバー

良い部分を最終戦の富士へ

予選は、トップとの差があつてそこを埋めたいと思っていました。セクター3、4は自己ベストで改善できましたが、得意な箇所とそうでない箇所のバランスが良くないです。しかし、予選ではそのポイントから結果以上に得られたものがありました。決勝では、スタートが決まりましたが、SCが入ったのでピットに入るしかなく、またピット作業のミスもありませんが、他でもミスがあったのか4番手で復帰できたのは不幸中の幸いでした。レース再開後、前を行く関門選手を抜きたかったですが近づけばダウンフォースが抜けたり、後方からの追い上げもすごかったです、苦しいながらも4位でポイントは獲ることができました。週末を通して、2戦とも良いところもありました。決勝のペースは悪くないので、この良い部分を最終戦の富士へ持って行きたいですね。



立川 祐路 チーム監督

最終戦、岡山Rdの
ようなレースをもう一度

受けてしまった石浦には申し訳ないと思っています。スタート位置を考えると、追い上げることが出来たことは良かったと思います。残り1戦、最後はまた1-2フィニッシュをした岡山ラウンドのようなレースができるよう頑張りたいと思います。

The Final

Results #38 石浦 宏明 予選 13位 決勝 10位 #39 坪井 翔 予選 11位 決勝 4位

To be
Continued...

レースはいよいよ最終局面へ



NEXT RACE Round 7 富士スピードウェイ 12.20 SUN